

「超」の用法

中村 純子

The Usages of ‘Chou’ (Super)

NAKAMURA Junko

要 旨

本稿は「超」の用法より、長く、広く使用されている要因を明らかにすることを目的とする。「超」は漢字熟語の前項、接頭辞的用法、副詞的用法とその用法を広めてきた。副詞的用法は新しく、主に若者に使用されている。付属語としての制約から自由になったため、生産性が高くなったと言える。さらに、「超」の文体的価値は若者ことばであっても、それほど低くない。これらが「超」の汎用性を高めた要因だと思われる。

キーワード

超 若者ことば 用法

目 次

1. はじめに
2. 「超」の用法
3. 「激」との比較
4. おわりに

【注】

【参考・引用文献】

1. はじめに

「超」は1980年代の終わりより、「チョー、チョ」と記され、若者に多用される、いわゆる「若者ことば」と認識されている。「若者ことば」は米川(2009:p.21)によって、次のように規定されている。

若者ことばとは十代後半から三十歳くらいまでの男女が仲間内で、娯楽・会話促進・連帯・イメージ伝達・隠蔽・緩衝・浄化などのために使う、くだけたことばで、ことばの規範からの自由と遊びを特徴とする。個々の語についての個人の使用・言語意識にかなり差がある。「若者語」ともいう。

若者ことばは、その使用期間が比較的短いことが特徴の一つであるが、「超」は長期間に渡って使用されている。米川(2012)は2012年に梅花女子大学において1993年当時の女子学生が使用していた339語の若者ことばの使用状況を調べた結果、58のことばが3分の2以上の学生によって使用されているという結果を得た。その中に「超」がある。

また、「超」は若者ことばとしては、使用している年齢層も広く、40代、50代にも使用されている。話し言葉だけでなく、本のタイトル、看板などにも使用され、マスメディアでも頻繁に用いられている。

このように、「超」はいまや若者ことばという範疇を超えて、いわば一般語として認知されつつある。しかしながら、管見によると、「超」を中心に扱った研究は非常に少ない。そこで、本稿では「超」が長く、広く多用される要因について、その用法より明らかにすることを目的とする。

なお、本稿では「超」の用法を従来の用法から若者ことばの用法まで包括的に記述するため、引用でない限り、若者ことばとしての「チョー、チョ」も含め、「超」と表記する。

2. 「超」の用法

2-1. 「超」の辞書的意味

「超」の意味は広辞苑(第5版、1998)、広辞苑(第6版、2008年)、大辞林(第3版、2006年)による、と以下のようなものである。

1) 広辞苑(第5版)の記述

- ①とびこえること。程度をこえること。「超過・超越」
- ②ぬきんでること。かけ離れてすぐれていること。「超然・超人」
- ③接頭語的に
 - ア. 程度一杯をさらに超える意を表す。「超満員・超特急」
 - イ. ウルトラ、スーパーなどの訳語。「超国家主義・超現実主義・超関数」
- ④俗に、その語の内容をはるかに超えていること。「一忙しい」

2) 広辞苑(第6版)の記述

- ①(接頭語的に) ア. 程度一杯をさらに超える意を表す。「一満員」
イ. ウルトラ、スーパーなどの訳語。「一弦理論」
- ②俗に、その語の内容をはるかに超えていること。「一忙しい」
- ③(接尾語的に)ある数値を超えていることをあらわす。「一万人一」

3) 大辞林(第3版)の記述

超(漢字項目)

音 チョウ

- ①基準や限界をこえている。「超過・出超・入超」
- ②かけ離れている。はるかにすぐれている。「超越・超人・超絶・超俗・超脱・超凡」
- ③極端な「超高速・超短波・超弩級(ちょうどきゅう)・超満員・超国家主義」

超(意味項目)

- 一. (名)数字の下について、ある数値を超える意を表す。「一万円—(一万円ヨリ多イ)
「六〇キログラム—」
- 二. (接頭)
一名詞に付く。
 - ①度が特に極端なものである意を表す。「一満員」「一高層ビル」「一弩級(どきゅう)」
 - ②あるものから極端に逸脱している意を表す。「一現実主義」「一心理学」二動詞・形容詞・形容動詞などにつけて程度がはだしいさまを強調する若者言葉。
「すごく、とても」「一むかつく」「一うまい」

広辞苑、大辞林に記載されている「超」の用法を整理すると、次の4つに集約されると思われる。

1. 漢字熟語の前項
2. 接頭辞的用法
3. 副詞的用法
4. 接尾辞的用法

このうち、4. の接尾辞的な用法は本稿では扱わない。以下、1、2、3の「超」の用法について詳しく考察していく。

2-2. 漢字熟語の前項

「超」は、漢字二字熟語の前項として後項の漢字の意味を①(基準や限界を)超えている、②かけ離れている。はるかにすぐれている(大辞林 第3版)という意味で使用される。これは、矢澤(1992)によると、室町時代、江戸時代の古辞書類にも採録されていたようである。この用法の漢字二字熟語は現在でも多く使われている。熟語なので、二字を付属語と自立語のように分割することはできない。語種としては漢語である。書き言葉としても用いられ、文体的価値も高い。また、「超」の後項の漢字の意味は下記の①～⑤の例のように

作用的、状態的なものである。

漢字二字熟語の後項の漢字の意味(大辞林(第3版)の記述より)

- ① 「超絶」 絶：この上なくすぐれている。
- ② 「超然」 然：状態を形容する語を作る。超然で物事にこだわらないさま。
- ③ 「超越」 越：(標準を)こえる。すぐれる。
- ④ 「超過」 過：度を過ぎす。
- ⑤ 「超克」 克：困難にたえて勝つ。

2-3. 接頭辞的用法

「超」は接頭辞として漢語につく。それゆえ、「超満員」、「超特急」など、漢語との複合が自然である。この接頭辞的用法は矢澤(1992)によると、「超人」から始まった。「超人」は、'superman'に近い意味で森田草平の『煤煙』(1909)などに用いられている比較的新しい語であるという。

さらに矢澤(1992)はこの「超人」により、「超」の用法に変化がもたらされたことを以下のように指摘する。

「超〇〇」で、(従来の)作用的や状態的な概念を表す「超伝導」や「超高速」などの用法ばかりでなく、「超ジュラルミン」や「超ドイツ」「超訳」などのように、度が過ぎた内容をもつ「事物」を表す用法や訳語を許容する素地ができたということである。

もう一つは、'ber'や'super'の訳語として意識されることによって、接頭語的な用法が生み出され、「超」+「〇〇」という分析が容易になったことである。

()内・筆者加筆

つまり、「超人」という使い方が認知され、それまで、漢語の熟語として「超+作用的及び状態的概念」だった「超」の用法に、新たに「超+基語(作用的、状態的、事物)」の接頭辞的用法が加わったということである。さらに「超」は、その機能上、「超ジュラルミン」、「超ドイツ」のように、漢語に近い外来語にも接頭辞として用いられるようになった。これは「超」が「漢語に付くものである」という制約から自由になったことを示す。

この接頭辞的用法により、「超」の生産性は飛躍的に高まることになる。しかし、接頭辞はあくまで付属語である。独立して用いられることはない。さらに、この時点では「超」が付加可能な品詞は、それが作用的であれ、状態的であれ、事物であれ、名詞に限られていた。

2-4. 副詞的用法

「超」が若者ことばとして広まると「超やべー(とてもやばい)」のように和語、名詞以外の品詞と複合する用法もごく普通に使われてきた。この時点で、「超」は接頭辞というより、副詞、つまり自立語としても用いられるようになったと言える。

「超」の副詞的用法では、「超+被修飾語(「超」に修飾される語)」に分かれる。ここで、被修飾語の語種と品詞について考察する。前述したとおり、「超」の接頭辞的用法では、語基

は名詞であり、したがって、「超」を含む複合語は名詞が原則であった。しかし、若者ことばの用法では以下の組み合わせも可能となった。これにより、「超」の生産性は飛躍的に高くなる。

超+形容詞、形容動詞、動詞

超楽しい(形容詞) 超楽(だ)(形容動詞) 超混んでいる(動詞)

また同時に、被修飾語には上記のように和語をとることが可能となった。つまり「超」が付加するものが漢語という制約から、完全に自由になったと言える。

いつから、どのように、このような副詞的用法が広まったのだろうか。このことを確かめるために『現代用語の基礎知識』に「若者ことば」として採録されている「超」を調査した。次節はその調査結果について述べる。

2-5. 若者ことばとしての「超」の用法

「超」が最初に若者ことばとして『現代用語の基礎知識』に採録されたのは1988年である。その1988年から現在2012年までの24年間の『現代用語の基礎知識』の「若者ことば」として採録されている「超」を調査した(表1参照)。その結果、「超」は以下のような構成で用いられていた。

1) 「ちょ、ちょう+形容詞の語頭2モーラ」

ちょう+かわ	ちょう+すご	ちょう、ちょ+安	ちょう、ちょ+ださ
ちょう+まぶ	ちょう+やば	ちょ+ねむ	ちょ+むず
ちょ+ばず	ちょ、ちょっ+ばや	ちょっ+ばや	ちょ+うざ

2) 「ちょ、ちょう+形容動詞の語頭2モーラ

ちょ+楽	ちょ+ひま
------	-------

3) 「ちょ、ちょう+動詞の語頭2モーラ」

ちょう+むか	ちょ+むかっ
--------	--------

4) 「ちょ、ちょう+名詞の語頭2モーラ」

ちょ+こみ	ちょ+さむ	ちょ+金
-------	-------	------

5) 「ちょう+形容詞の語末2モーラ」

ちょう+たりー (「かったるい」から)

「超」が付加された語は上記の1)~5)が示すように圧倒的に短縮語が多い。しかも語頭の2モーラで、短縮語を作ることが多い。このことは、語形成の法則一長くて、よく使う語を短くする、語頭部分を残す一に従っている。さらに、短縮語において語頭の2モーラを残すというのは、日本の伝統的な規則であるⁱⁱ。ただし5)のような語末2モーラに付くという例外もある。

「超+外来語の短縮語」も採録されている。

6) 「超+外来語の短縮語」

ちょ+スピ

2つ以上の外来語を組み合わせた短縮語にも付加されている。

チョ+バ+チョブ　　チョ+ベリ+バ
チョ+ベリ+バ・チョ+ベリ+ブ
チョ+コン+バ

2つ以上の外来語以外、または外来語を含んだ短縮語に付加したものもある。

7) 超+短縮語①+短縮語②・・・

チョ+ぼ+ばん　超+がん+ぶ+ろん　超+マツハ+きれ+すん

語頭の音をアルファベットで表す、次のようなものも採録されている。

8) 超+語頭音(アルファベット表記)①+語頭音(アルファベット表記)②・・・

超+MM　超+MMC　超+SBS　超+MSA　超+SW

このように、若者ことばには短縮語が多いが、短縮語に付けられた「超」はあくまで接頭辞と考えられる。というのは、これらの表現は、9)の例文のように制限用法として用いられることはほとんどなく、主に叙述用法として用いられる。しかも、これらの短縮語は短縮前の品詞がどうあれ、名詞相当語として振る舞う。このことは完了形にしてみると、名詞相当語と同じく「だった」が付くことで分かる。つまり短縮語に付けられた「超」はあくまで名詞的なものに接続する接頭辞的用法の域を出ていないことになる。

(○は自然?は不自然なことをさす。以下同じ)

9) ○あの店、ちょう安!　　叙述用法　非完了形

○あの店、ちょう安だった　叙述用法　完了形

?ちょう安の／な店で食べた　制限用法

○あいつ、超MM!　　叙述用法　非完了形

○あいつ、超MMだった!　叙述用法　完了形

?超MMの／な奴　　制限用法

○今日はチョベリバ!　　叙述用法　非完了形

○今日はチョベリバだった　叙述用法　完了形

?今日はチョベリバの／な日だった　制限用法

「超」が完全に自立語の副詞として使用されているのは、10)～12)のような例である。

10) 超+形容詞

ちょ+さぶい　　ちょう+かっこいい／かっくい

ちょう+かわいい　　ちょう+うれしい　　ちょう+暑いんだけど

11) 超+形容動詞

ちょ+グッド

ちょ+バッド

ちょ+ハッピー

12) 超+動詞

ちょう+混んでいた ちょう+ウケる ちょう+驚いた
ちょう+ウケるんだけど

このように超+非短縮語は採録数が少ない。しかし、それは使われていないということではない。実は2001年より「超」は単独で見出し語として採録されている。これは「超」が様々な語に付加することを示唆している。「超」は自立語の副詞として、動詞、形容詞、形容動詞を修飾する。和語(10)の例、外来語(11)の例、そして漢語(例：超最悪)も修飾する。生産性という面では非常に高くなったと言える。

「超」が果たして副詞として、自立語として機能しているかということ进行测试する方法として、被修飾語と隣接しないで用いることができるということがある。以下の例が『現代用語の基礎知識』2005年に採録されていた。

「超えられるのヤだから。」(とても告白されるのが嫌なので)
(若者ことば「ヤだから」の例文として採録)

この「超」は「ヤだから」に意味的にかかっている。つまり被修飾語に前接していない。接頭辞的用法には語基から離れた用法はあり得ない。「超」はここに至り、完全に自立語、副詞としての用法を確立していると言える。

【表1】『現代用語の基礎知識・若者ことば』に採録されている「超」一覧

年	見出し語(意味)
1988	「超」(ちょー、ちょう)ものすごく ちょうかわ(超かわいい)、 ちょうすご(超すごい)、ちょう安(超安い。激安)、 ちょうださ(ものすごください)、ちょうむか(すごく腹が立つ)、 ちょうまぶ(かっこいい)、ちょうやば(とても危ない)
1989	超ださ(ものすごください)、超すご(ものすごい)、 激まぶ/超まぶ(とてもまぶい。すごく良い。すごい美人)
1990	ちょ(超)とても「学食すいてた?」「ううん、超混んでた」、 「ちょねむ」(とても眠い)、「ちょ楽」(とても楽だ)、「ちょ安」(とてもやすい)、 ちょグッド(とても良い)
1991	超ださ(ひどくダサイ。いなくさくて、あかぬけない)、 超すご(ものすごい。「超」は「ちょ」と読む。さらに超ウルトラと強める)
1992	ちょ(超)強意語 ちょこみ(大混雑)、ちょださ(とてもださい)、 ちょむかつ(すっかり腹の立つこと)、ちょすご(とてもすごい)、 ちょーかっこいい(とてもかっこいい。このように後に続く言葉によって「ちょー」とのばす)、 ちょらく(とても楽。やさしい。)
1993	ちょ(超) ちょこみ(大混雑)、ちょださ(とてもださい)、 ちょむかつ(すっかり腹の立つこと)、ちょすご(とてもすごい)、 ちょーかっこいい(とてもかっこいい。このように後に続く言葉によって「ちょー」とのばす)。「ちょーかわいい」「ちょーうれしい」など)、 ちょらく(とても楽。やさしい)

1994	<p>ちょ(超)強意語 ちょこみ(大混雑)、ちょむかつ(すっかり腹の立つこと)、 ちよすご(とてもすごい)、 ちょーかつこいい/ちょーかつくいい(とてもかつこいい。このように後に続く言葉 によって「ちょー」とのぼす。「ちょーかわいい」「ちょーうれしい」など)、 ちょらく(とても楽。やさしい)、ちょスピ(猛スピード)、ちょさむ(すごい寒さ)、 ちょさぶい(とても寒い)、ちょむず(とてもむずかしい)、 ちょださ(すごください。「なまってちょんださ」)</p>
1995	<p>ちょ(超)強意語 ちょこみ(大混雑)、ちょむかつ(すっかり腹の立つこと)、 ちよすご(とてもすごい)、 ちょーかつこいい/ちょーかつくいい(とてもかつこいい。このように後に続く言葉 によって「ちょー」とのぼす。「ちょーかわいい」「ちょーうれしい」など)、 ちょらく(とても楽。やさしい)、ちょスピ(猛スピード)、 ちょさむ(すごい寒さ)、ちょさぶい(とても寒い)、ちょむず(とてもむずかしい)、 超たりー(ものすごくめんどうで、やる気がしない)、 ちょださ(すごください。「なまってちょんださ」)</p>
1996	<p>ちょ(超)強意語 ちょこみ(大混雑)、ちょむかつ(すっかり腹の立つこと)、 ちよすご(とてもすごい)、 ちょーかつこいい/ちょーかつくいい(とてもかつこいい。このように後に続く言葉に よって「ちょー」とのぼす。「ちょーかわいい」「ちょーうれしい」など)、ちょらく(とて も楽。やさしい)、ちょスピ(猛スピード)、 ちょさむ(すごい寒さ)、ちょさぶい(とても寒い)、ちょむず(とてもむずかしい)、 ちょねむ(とても眠い)、ちょひま(とてもひま)、ちょばず(とてもはずかしい)、 ちょパッド(とても悪い)、ちょださ(すごください)、 超たりー(ものすごくめんどうで、やる気がしない)</p>
1997	<p>超MM(超まじむかつく)、超たりー(ものすごくめんどうで、やる気がしない)、 ちょ(超)強意語 ちょこみ(大混雑)、ちょむかつ(すっかり腹の立つこと)、 ちよすご(とてもすごい)、 ちょーかつこいい/ちょーかつくいい(とてもかつこいい。このように後に続く言葉 によって「ちょー」とのぼす。「ちょーかわいい」「ちょーうれしい」など)、 ちょらく(とても楽。やさしい)、ちょスピ(猛スピード)、 ちょさむ(すごい寒さ)、ちょさぶい(とても寒い)、ちょむず(とてもむずかしい)、 ちょねむ(とても眠い)、ちょひま(とてもひま)、ちょばず(とてもはずかしい)、 ちょパッド(とても悪い)、ちょださ(すごください)、ちょばや(とても速い(早い))、 ちょハッピー(とてもしあわせ)、 チョバチヨブ(超パッド、超ブルー。最悪で気分が非常に重い)、 チョベリバ(超ベリーパッド。最悪。強めて、チヨモロベリバ)、 チョベリバ・チヨベリバ(超ベリーパッド・超ベリーブルー どうしようもなく最悪で、 すっかり落ち込んでいる)</p>
1998	<p>超がんぶろん(超顔面不細工でロン毛の若者)、超MM(超まじむかつく)、 超MMC(超まじむかつくので、殺す)、ちょうざ(超うとうしい)、 超たりー(ものすごくめんどうで、やる気がしない)、 ちょ(超)強意語 ちよすご(とてもすごい)、ちょらく(とても楽。やさしい)、 ちょむず(とてもむずかしい)、 超SBS(超スーパービューティフル・セクシーな女の子超MSA(超まじさびしい会いたい)、 超SW(超性格悪い人)、超マツハきれすん(怒りが爆発する寸前)</p>

1999	超がんぷろん (超顔面不細工でロン毛の若者)、 超たりー (ものすごくめんどうで、やる気がしない)、超MM (超まじむかつく)、 超MMC (超まじむかつくので、殺す)、ちょむか (超むかつく)、 超マッハきれすん (怒りが爆発する寸前)、 ちょ(超) 強意語 、ちょすご (とてもすごい)、ちょらく (とても楽。 やさしい)、 ちょむず (とてもむずかしい)、 超SBS (超スーパービューティフル・セクシーな女の子超MSA (超まじさびしい会いたい)、 超SW (超性格悪い人)、超マッハきれすん (怒りが爆発する寸前)
2000	超がんぷろん (超顔面不細工でロン毛の若者)、ちょうざ (超うっとうしい)、 チョコンパ (超コンディションパッド「きのうオールでチョコンパー (「きのう徹夜をしたから体調わるーい」)」、 ちょ(超) 強意語 、ちょすご (とてもすごい)、ちょらく (とても楽。 やさしい)、 ちょむず (とてもむずかしい)、 超SBS (超スーパービューティフル・セクシーな女の子)、 超MSA (超まじさびしい会いたい)、超SW (超性格悪い人)
2001、 2002	ちょっきん (超金髪)、超たりー (ものすごくめんどうで、やる気がしない)、 ちょうざ (超うっとうしい)、 ちょ(超) 「超最悪」「超驚いた」、 ちょぼぼん (超膀胱ばんぼん)
2003	超たりー (ものすごくめんどうで、やる気がしない)、ちょうざ (超うっとうしい)、 ちょ(超) 「超最悪」「超驚いた」
2004	超ウケるんだけど (冗談など実際には面白くない時に使う) 超たりー (ものすごくめんどうで、やる気がしない「かったるい」から)、 ちょうざ (超うっとうしい)、 ちょ(超) 「超最悪」「超驚いた」
2005	超たりー (ものすごくめんどうで、やる気がしない「かったるい」から)、 ちょうざ (超うっとうしい)、 ちょ(超) 「超最悪」「超驚いた」、 超～なんだけど (とても～だ。「超ウケるんだけど」「超暑いんだけど」)
2006、 2007、 2008、	ちょっばや (超早く、早く)、ちょうざ (超うっとうしい)、 ちょ(超) 「超最悪」「超驚いた」、 超～なんだけど (とても～だ。「超ウケるんだけど」「超暑いんだけど」)
2009	ちょっばや (超早く、速く)、 ちょ(超) 「超最悪」「超驚いた」、 超～なんだけど (とても～だ。「超ウケるんだけど」「超暑いんだけど」)
2010、 2011、 2012	超～なんだけど (とても～だ「超ウケるんだけど」「超暑いんだけど」)

採録順転載 ゴシック (大見出しと思われるもの)

2-6. 書き言葉、メディアに使用される「超」

この若者ことばの「超」が書きことばとして逆に用いられるという現象が生まれた。『現代用語の基礎知識』(1995 : p.1066)、「風俗・流行」によると、1993年以降の出版会が使う「超」は若者ことばの「超」から使われはじめたという。以下に例をあげる。

『「超」整理法』(野口悠紀夫著・中央公論社)

『「超」価格破壊の時代』(長谷川慶太郎著・東洋経済新報社)、

『超円高』『超倒産』『「超」マーケティング』『「超」管理職』

このように、若者ことばの「超」が出版会によって、しかも経済の分野において多く使われたことが、「超」の文体的価値を高め、他の若者ことばと異なった地位が与えられた要因の一つと考えられる

また、「超」は不特定多数を対象とした標識、看板、広告のキャッチフレーズなどにも使われている。このことは、「超」がすでに一般語として浸透している証左だとも言える。

- 「チョー徐行」(交通安全のための標識)
- 「超みそ ほっかいどう」(ラーメン屋の看板)
- 「超超超特価市」(スーパーの広告)

メディアでもタイトルの次のような表現が使われていた。

- 「超」大変な道のり(ザ・世界仰天ニュース テレビ信州9月26日放映)
- 超お嬢さま生活(誰だって波乱万丈 テレビ信州9月30日放映)
- ドロ沼! 超壮絶! 女の離婚劇SP (世界のコワ〜イ女たち SBC10月2日放映)

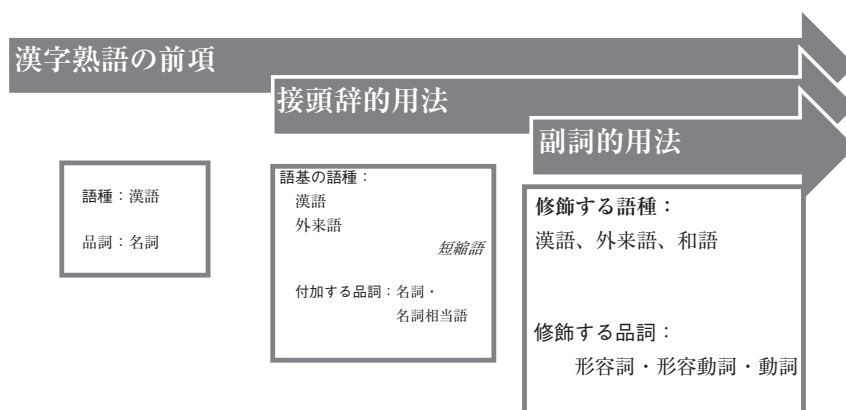
また、下記の番組の中でも会話の中に以下のように使用されていた。

- 「超遊んでいましたね」(秘密のケンミンSHOW テレビ信州9月28日放映)
- 「超久しぶり」(秘密のケンミンSHOW テレビ信州9月28日放映)
- 「超かわいい」(AsianAce SBC9月30日放映)

以上、書籍、サイン、メディアに頻繁に用いられる「超」はすでに若者ことばから一般語の地位を確立していると考えられる。

3. 「激」との比較

以上のように、「超」が一般語となった要因は、漢字熟語の前項、接頭辞的用法、副詞的用法とその用法を広げていったことにある(図1参照)。



【図1】「超」の用法の変化

用法の似ている「激」と比較すると、「超」の特徴がより明らかになると思われる。矢澤(1992)によると、「激」も、「激怒」、「激流」のような漢字二字の熟語の一部の固定的な用法から、「激写」という接頭辞的な用法が新たに作られ、和語の語幹に付く「激辛」まで用法を広めてきた。

さらに、『現代用語の基礎知識』には、1988年、短縮語ではない「激おかしい」、「激寒い」のように「激+形容詞(和語)」が採録されている。これは副詞的用法と言える。しかし、この用法は1988年に一度掲載されたのみである(表2参照)。

【表2】『現代用語の基礎知識・若者ことば』に採録されている「激」一覧

年	見出し語(意味)
1988	激(ものすごく)「激おかしい」「激寒い」
1989	激まぶ(とてもまぶい。すごくよい。すごい美人)
1990	激「激まぶ」(とても美人)「今日は激疲れた」
1991、1992、1993	掲載なし
1994	掲載なし。代わりに極(ごく、きょく)が激に変わる強意語とあり。
1995	激(げき)「激込み」など
1996	掲載なし
1997、1998、1999、2000	激 強意語 激プリ(とてもかわいい)
2001～2012	掲載なし

また、1994年には「激のかわりに極が用いられる」という記述もあった。他は短縮語、名詞相当語に付加した用法しか採録されていない。つまり「激」は副詞としての用法を確立できなかったと言える。したがって、以下のように被修飾語に前接しない自立語の副詞としての使い方は不可能である。

(○は自然、×は極めて不自然なことをさす)

× 激これ、辛いんだけど・・・

○ 超これ、辛いんだけど・・・

× 激この番組面白いんだけど・・・

○ 超この番組面白いんだけど・・・

× 激この部屋寒いんだけど・・・

○ 超この部屋寒いんだけど・・・

4. おわりに

「激」と比較しても、「超」が多用される要因として、その用法の多様さが挙げられる。なかでも、「超」が自立語の副詞として完全に熟した使い方を確立していることが、「超」の生産性を高め、多くの人に多用される言葉となった要因であると思われる。また、もともと漢語という出自、さらに出版物にも使われることから、文体的価値も低くないことも一因であろう。今後、「超」は一般語として完全に定着していくのか、それとも次第に衰退してい

くのか、その動向を探るべく、さらに通時的な研究を行っていきたい。

【注】

ⁱ 田村(1995)は接頭辞を以下のように説明している。

接頭辞は語構成の一つであり、常に他の語に前接して、何らかの意味を付加し、合成語の前項部分を構成する要素のことである。そして、基本的にはそれ自体が単独で用いられることはないが、中には「豆電球」の豆や、「鬼監督」の「鬼」などのように本来自立語であったものの意味が転じて、接頭辞となったものがいくつかみられる。接頭辞の付加した語は接頭辞と語基に分けられる。

ⁱⁱ 窪蘭(2006)P.54による。

【参考・引用文献】

窪蘭晴夫(2006)「若者ことばの言語構造」『月刊言語』3月号 Vol.35- No.3 大修館書店

『現代用語の基礎知識』(1987-2012) 自由国民社

田村泰男(2005)「現代日本語の接頭辞について」『広島大学留学生センター紀要』15

(広島大学留学生センター)

永瀬治郎(2006)「若者ことば全国分布図」『月刊言語』3月号 Vol.35- No.3 大修館書店

新村出(1998)『広辞苑』第5版 岩波書店

新村出(2008)『広辞苑』第6版 岩波書店

松村明(2006)『大辞林』第3版 三省堂

矢澤真人(1992)「造語の世界と超」日本機械学会誌 Vol.95, No.887

米川明彦(2009)『集団語の研究 上巻』東京堂出版

米川明彦(2012)「学生集団のことばの変化」『日本語学』2012 vol.31-11 明治書院

呂始蓮(2004)「強調の接頭辞について—接頭辞「ぶちー」「ぶっー」「ぶんー」「うちー」を中心に—

(『外国語学研究』第5号 大東文化大学大学院外国語研究科)